

55 練馬の魅力づくりと練馬ならではの観光の推進

(1) 「練馬ならではの魅力」の発信

●広報キャンペーンの実施

27年3月から、みどり豊かな区の魅力を全国に発信する広報キャンペーン「よりどりみどり練馬」を実施している。

令和元年度は、令和元年11月に開催した世界都市農業サミットを契機に、市民生活と融合した都市農業を“練馬暮らし”という視点で、区の魅力を区内外に伝える広報キャンペーン「TOKYO とれたて♡ライフ in 練馬」を展開した。

令和元年10月に、広報キャンペーン専用WEBサイトで、練馬産野菜を使ったレシピ動画6本を追加公開した。

また、10月から12月には、練馬産の新鮮野菜を使った“とれたて♡スムージー”を区内外のイベントで無料配布（約4,000杯）し、世界都市農業サミットの機運醸成及び都市農業の魅力を発信した。



〔「TOKYO とれたて♡ライフ in 練馬」のロゴマーク〕



〔区外のイベントで“とれたて♡スムージー”を配布する様子〕

(2) 「練馬ならではの観光」の推進

住宅都市として発展してきた練馬区は、観光都市のような経済効果のある観光資源はあまり多くない。

しかし、日常の中にきらりと光る特色ある資源や、これまで育まれてきた伝統や文化がある。これらを磨き価値を高め、特色ある区の魅力として広く発信していく必要がある。

●練馬の魅力を体感できる仕組みづくり

1 観光案内板の設置

区内の鉄道20駅に1基ずつ観光案内板を設置している。区内の観光スポット、名所、区立施設などを紹介することで、区民や来訪者に練馬区の魅力を発信している。観光案内板には、地図情報のほか、練馬区ゆかりのアニメを活用し、「アニメのまち練馬区」を体感してもらう。

令和元年度は、東武練馬駅・練馬高野台駅の2駅の観光案内板の盤面更新を行った。

※観光案内板の設置駅：

練馬区内にある西武池袋線、西武新宿線、西武豊島線、西武有楽町線、都営大江戸線、東京メトロ有楽町線・副都心線、東武東上線の各駅

2 ねりま観光センターの運営

区は、(一社)練馬区産業振興公社のねりま観光センターと連携し、事業費等の補助を行い、観光振興事業を展開している。ねりま観光センターが令和元年度に実施した主な事業は、「ねりコレ2020」の募集および認定、映像・アニメに関するイベントの実施、観光ガイドの作成・配布、体験型の観光ツアー、ねり丸グッズの制作・販売などである。また、区内2か所に区が設置した観光案内所の運営を行っており、観光スポットやイベントなどの情報発信のほか、「ねりコレ」等区内名産品の販売を行っている。

(3) 練馬の魅力を感ずるイベントづくり

区民や区外からの来場者が参加・交流し、練馬の魅力を実感できる機会を創るため、区の2大まつりである練馬まつり・照姫まつりを開催した。

●第42回練馬まつり

としまえん会場を中心とした出展やステージイベントのほか、練馬産業見本市など、多様なイベントを同時開催した。

〔開催日〕 令和元年10月20日

〔場所〕 としまえん

〔来場者〕 約 35,000 人

〔概要〕 ・ステージ
・各種出店・展示
・子ども体験コーナー
・ヒーローショー
・サイエンスショー

〔主催〕 練馬まつり推進協議会

〔同時開催したイベント〕

・練馬産業見本市、健康フェスティバル、
ねりまエコスタイルフェア



〔第 42 回練馬まつりポスター〕

●第 32 回照姫まつり

華やかな時代衣装を身にまとった照姫を中心に、勇ましい鎧姿の武者などで構成された約 100 人が照姫行列を行った。

〔開催日〕 令和元年 5 月 19 日

〔場所〕 都立石神井公園およびその周辺

〔来場者〕 約 47,000 人

〔概要〕 ・照姫行列・出陣式・帰還式
・ステージ
・出店・展示・子ども体験コーナー
・チャンバラ合戦
・企業・個人参加行列

〔主催〕 照姫まつり推進協議会



〔第 32 回照姫まつりポスター〕

●練馬区花火フェスタ

練馬区をイメージしたみどり色をはじめ、色鮮やかな花火がねりまの夜を彩り、家族づれなど多くの人出

でにぎわった。

〔開催日〕 令和元年 8 月 1 日

〔場所〕 としまえん

〔来場者〕 約 23,600 人

〔概要〕 打ち上げ花火 5,000 発 (約 15 分間)

〔主催〕 としまえん

〔後援〕 練馬区

(4) 風を感じるまちづくり

●散策しやすいまちづくり

区では、都市計画道路や生活幹線道路などの新設に当たり、バリアフリー化を図っている。併せて、地域の景観に配慮した緑化、無電柱化、街路灯などの施設整備による道路の質の向上を図り、安全・安心で散策しやすいまちづくりを進めている。

自転車は、区内に散在する地域資源を巡るうえで適した交通手段である。このため、都市計画道路の整備に際しては、自転車レーン等の設置を進めている。

●シェアサイクル事業の社会実験

シェアサイクルは、複数のサイクルポートを設置し、どのポートでも自転車の貸出・返却ができるシステムである。

区では、29 年 10 月から令和 3 年 3 月までの期間で、区内での利用動向、事業の費用対効果、事業の継続性を検証するための社会実験を実施している。